源氏物語 六

九曜文庫

541

若菜 下

柏木

横笛

鈴虫

△若菜巻 下

会葉をいて巻こたらしき日あり

上巻にあり

ことゝ里と思へと 上巻の絶(ツヽリ)に

物語りをよれ物に思ひりを

おなしくらとの詞をうせ

せきり

院の御ため 柏木の源氏をかこ

しきをうしてたしとしふ申れ

何しかもしんとも

御ことゝ日ハ 右衛門の

実(ジツ)ハ源氏の内大臣となりたく
へ内まゐりしけりて何けり
紅ハぬるとおりすりと云
○里のやまふかきまで
まさつ源氏まうて色紅に
密通(ミツツウ)へるとわりれは為(ム)
よわりわりて源氏をまうけき
紅葉の賀すらと云也
○春宮女御　紅葉中宮まうと也
春宮の母女御と云也
○源氏兄朱雀　弘徽殿への
紅よりぬまと云也　藤壺也
桐壺の后中宮　性(シャウ)を娘(ムスメ)の
源氏の君ハあけぼのとも漢女といふ
こゝろ源氏まされて　左府ハ何と
葵の上也
○まさハ源氏の御　秋好む源氏
のふしてとる紅つのおもとす
かゝる里わ也
○源氏の御おほめして居るに
おほきさゝ源氏の御殿へ
んやきさふへつるとの対面(タイメン)

あんとなりしまして

唯宮の口まいは　女これまして

法門の口ぶりとくめて　ムこよ

の口まして

おかれたら　太郎して

おこのいとも　先上の源氏

まゆ給て

有御しうけらき　源氏の詞して

女法門の君　御石中宮して

このうちと　先上の事して

門かゝは　御石上して

年とれ長姫の君　御石

君の毎度せし神楽して

御えらしかし　少学かまりくして

上りかりそのに男と屋ほし

上巻まとへ御の詞に　変紀

物とおかしめせと何り男とや

はとしてを　変紀の名を　変紀

と云ハ紅葉薩の形力何りハ

乾力よくして　吾恩の業な

感して　かりて形と現ずるまして

変易生死と云て　布

雅宮　女二宮也
女清の君ハ　ありしの中宮也
此宮　女二宮也
むまにはちらく　よりひのすゑ
ちりおもと
たゞ面と一たひ　女二の門まと
此たひはりゆけん　朱雀院
朱雀五十の賀と源氏の里
行ふ也　源氏ハ軍六番也
大将の門子　左衛門井右の
子と内侍のすけ也の子ハ二人

宮ハ月とよりきさんの門ことし
女二宮也
かの門琴の事　女二の源氏ハ
かひ行ふ琴を朱雀院の
きまりしよりも
大曲　大きかの楽かり琴ハ
大中小とて二何ると
宮きまりをく　宮季ハ寒（サムサ）
温（ヌルサ）をしらへてのかれ也
御しのんとれ　中ハ御ハ手也
桜（アンズ）ハをきゆるまと

清子二所　ありしの女清の門
腋(ハラ)也
みとりまこうと行て　憐愍(クハイミン)也
[illegible]　源氏の四十七也
院の門賀　すぐ院也門より
門を行ましまして源氏の[illegible]
行つ也
女楽　女試楽(ヲシヤウ)と云後何り
是を女楽(ナヨガク)と云ひ也　女二の
たりにい試楽(シヤウ)也　朱雀院に
ての試楽(シヤウ)に何る奈(ヨ)れ[illegible]

たく女楽なる也し
此門琴の[illegible]　女二かと
まるひたりまりしと也
折ほく忘こ　女二なり
二十一二(ニジウイチニ)なり　源氏の[illegible]
いまはかぬこと付十四まや
ぎびぐ　雅　いとをなれ也
[illegible]　女二宮の門[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

三郎とよびつれあるは嫡（チャク）
子なりにはりてあふ君とい
ひまつり女楽（ヂョガク）あるにも路（ジャク）
手気の名と引絃也

○乃ら絃ことゆりふとかけもとこ
絃物ハ此声ハ調子（テウシ）ちかふて箏ハ
こゝにありまかり地也

○女ハえとれけり　琴の絃と
けりまた

○箏乃そふ　乙の音と風かた
よりふたふとそ箏乃そふ

ちり色すは風の

○一ふてこにちりめとく　八絃（ハチゲン）ハ
初絃（ハツゲン）とこととこ二一越調（イチコツテウ）の
二絃（ニゲン）より初りて三絃とこれ
のとこ色しともある口ゆの
一絃（イチセン）の絃て八発絃（ハツゲン）ハ初絃（ハツゲン）と
云云調子の宮（キウ）の初とい為
らハ二一越調（イチコツテウ）ハ二絃とそらと
いふ色まうや

○為にこうた　父節のまと

○長れ琴の弓　長れの若（ニャク）お

たらひ有けるのち是をとひて
人まつらせたるかんとなを
てこゝにおきつゝ御ふるへ申
とり　琴ハ大まれ物なるを
よりて申りて御ふ色ハよりて
ぬまゝ何なるとゝひてなんと
いをさるも
うれしき　うなりしきこ
むやこをとるけんハ世ゆゑひか
なり　是まをはなきれ申
ありしても世ゆゑこうけれ

しるへうしきれをしき色也
まれ是ゝ色　橋（ヤウテ）手　行（ヤタタリ）音
水（スイウ）宇（ヘウ）瓶　蒼（サウ）海（ヤイ）波　啓（ヤヒ）嶋（メイ）潤（テウ）
かつらきのそひ　かつらきれ
まれまへなるや　豊（トヨテ）所なるのや
あるなれ二段　えれ葉井より
白玉しろくるやとしとんこと
うんと二段　しりしてハ国そのかへん
やまいつゝ此かゝしせんやうし
うんと小しとんと
えれ葉井清水也　しほくる

二僧都　州山の僧都也
仙洞ハ　源氏の詞也
かりしまめを　源さのまたも
枝一ツ　源さのまたも
后といひ　かくはしめへく
たゞ里まゐりとも
此宮　女二宮也
門ゆるされ上　月(シシン)ゆまも
志ゐまゐりとも
門もみゆる　源氏の五(ハンタウ)言也
さてハ相思ひあるれ　こゝろの

ため新まゐ亀まも
のこれ花ゆ　詞すゑ
ゆるを源氏もまゐ給へき也
門ゞ　されハ也　二十七ハ女れ
大宮也
おれしも　源氏の詞也
大ゆれ　葵よりまも
葵上のあまりゆゑて
とをゆ有門ゆゑとも
さうしゆ　賢(ヤシコキ)也たゞりまゐ
まて相面しとハ思へ也

二品宮　女二宮也
とゝ御はし　中屋れいと
あんしこゝて　相きとよはし
まあんしこゝろと
たにとゝろに　回てとゝふさち
てしまゝ御ゝ御と様に
なひ御きまし
あにうれに　世ゝまゝゝゝて
御けちゝそゝて御様む
ら御世に御ひさりゝへま
武部て宮と　然とれ四ちゝ

大将れ君　夕霧也
かくの行つゝよゝひ　兼経
よゝひ行ゝ行ゝよゝひい
かくゝていふ色まゝと
かゝ御れらゝろゝ
先上のたま　源氏れ四ゝ
宰(ラウ)籠(ロウ)と云御しあゝれ
ゝ御ゝまゝ御也
ゝしゝ人ゝそ四色　現人也
ゝ家宮と所也
女御ゝ御ゝ御ゝ

女人為業障　女人地獄使
能断仏種子　外面似菩薩
内心如夜叉　といふ事あり
三世諸仏心ハ女一人にあつむ
五つにハいつはりを　龍王経曰
一日一夜間持所五戒人
生々二十二天中
汝能かくこ　患よれ
おくのりあ　能のをと
地獄のおそれハぬれぬるをたも
くもりのそぬと

をれやうろのいりいもと
患上のいのりと
気障よいハ　以前の乃湖に患
よたくりゆしとつぎあり
しにかりて　細くもいあゆと
姿めやうにみなり　稲本
女ニハうのかしり幸のえと
かくうやこれつり　嫉妬ぬと
これやまうつこなり
女ニ家嫉妬れまつふやよ
うつこなりと

ぢゞがん 讒言と
みまう 勿論と
あにいもうとひさあり
柏木の弟と
一条の御休所 女二の宮
女三宮は 是は院の女三宮
柏木の妹と
此大将の北のかた 玉鬘尚侍
右大将の御弟 北のかたと
女宮のことを 女二の宮と
衛門督これ 柏木と女二の宮

よめと
たかく 柏木の宗の御ゆし
きこえて 女宮をもとゝも離れ
いとおしやと 思ひ給ひと
あさま 女二宮と 柏木の
気色をも思ひしらるゝと
若君の御事と 柏木の若君
の事をきゝと 思ひあはせ給ひと
やうやうに 源氏の御心さ
まにうつりてらと
いかれ祖父 五十日まうく

他

男子にむかつてけらはるゝ
源氏四十いまて詞也部ゆゑ
金言也汝（ナンチ）ちゝ柏木に似さ
也とゝ

此事ハ思ひ給へ　女二宮と
柏木の婿（ナカゾチ）したる女房あるに
ゆゑと源氏の知給ハぬ事
とゝ

我とかの事ハ　二川ハいん
まハ源氏のまゝのとこゝろゆゑ
名にたちぬ事ハくるし

いかましきうと女の四たのいと
しきうと

おもたちの子にあまりしと
柏木の親をとゝ

たゞ母にか程とまゝ行しと云
此てなるまゝとゝ

いかてかたゝまハ　女二宮也
此事ハ思ひ給へしとゝ

是こそ柏木にしたる　柏木に
りけるまゝとゝ

女宮ゆゑ母と　夕人事ゆゑ

△横笛巻

弁をもて巻名とす

故権大納言のもとにて

とのはら納言のもとにて

詩をくることを　一周（シウキ）云也

いつきのはしめありけるを

いはれまし　二業の見也

金百両　別とあれはいはれ

ありしなりけるを

たりけれ　泉（イツミツタツヱ）山上（ニノ）を（ヲトシ）

笙（ヲカヂツミテハヤシツケツルヲ）看林出（ヲハヤシツケツルヲ）生白民

難入れんと
難解（ナンケ）

旧里賦（キウリフ）
山陽旧居（サンヤウキウキョ）
楚庸思（ソヨウシ）隣人笛吹賦（リンジンテキフフ）
旧思賦（キウシフ）作（ツクル）
血秀（ケツシウ）楚庸（ソヨウ）
知音（チイン）

むすばれ相木也。笛の事と
中の知りまほしけり。いまだ法師と
もいひけり。文選笛賦
よいとく。蜂聚蟻閑
衆音猥積
いとゝ我こ。いまと我といふこの
山の山のうこきなとふれ花や
かほまちのうやうまるうや
僅ふ衆。呂方也。
こよいれ月とこぬ所にも
かくかりねしとふふ君を流し

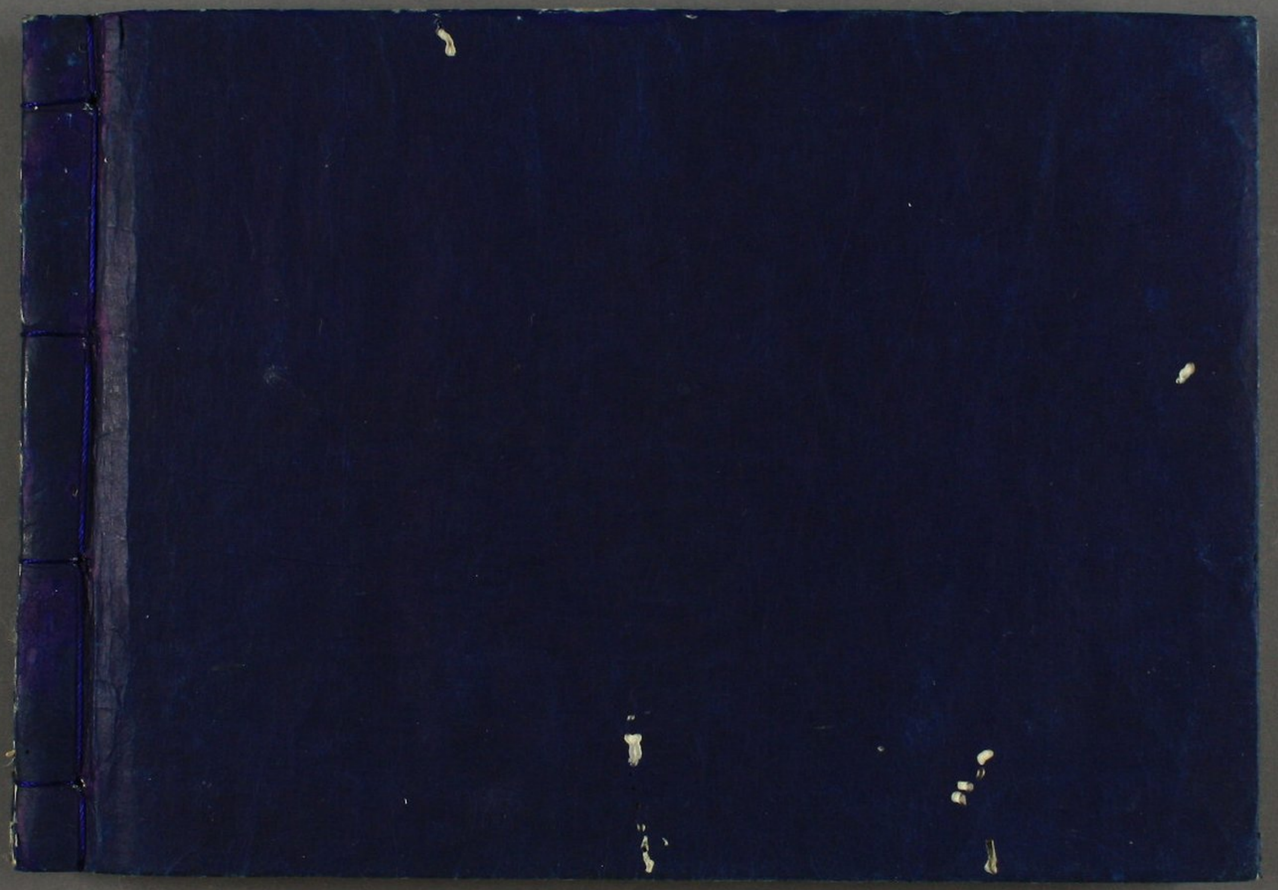
ねてゆけんつきそうき
いかるまいたる。相木れ女二字
とおひしらひしかまと
ちうれよに。まくしまくゆまい
かるうもみとりけるも。限
なくゆてもこぬよりするなる
この巻にもいかとつり。
我門中れ。夕人事と。世界為
その中也。
おうりるしい。夕人事をしん
そ別んなれしよりて。飛

おりませ　みとれおいは嵩とも
いとさやうく　夕人軍れ法
おとけてんまりろくしも
ちうりまし　輕こ（キヤウ〳〵キヤウ〳〵カロシ）恐こ（シツル）
うまり　ゆゆれまし
おゆやあれ門ちきまりと
近来のちゆまてまりまし也
こゆうまきゆひ給と
二栄れ門子ともいさの給ふ
ん　おれし　此巻まりゆゆ二
栄白宮ハ二栄と何り

院を門んしていとみすりかし
源氏を入る宮へ行り給ひ
寝殿の中ゆまし見る事
ての給ひ
志れ門座　源氏夕人軍れまし
との給ひ　とりこれすこのされ
祝ことなり　とのこのとなり
あし　門子ゆまし礼給ひ
何ゆこまれうて　源氏對
ひてりの給ふ上こ
宮れ若君　りゆれまし

造花と風とまつくしよ
花まや
いつれ百あの　こゝやうかり
うの百歩れんかうとき
たるかを何り
あうしれはさけ　脇士ハ観音
勢至也　観経曰
世量寿仏　住立空
中観世音　大勢至
是二大士侍立左右
荷葉れまう　是ハ日なれ也

みちをかくし　是寄るまハ
あまりてをハ不入とはかくしたい
はなくらしたり也
是とたに　女室と浮氏とは
世ちきりのうすれと云也
紅れなりしはちやうたい　蒸暫
はちやうたいれ上に紅とおなく
経れ机と変れたる也　河海
いれの紅ハこるのやまりと不れ
詞しなまりしとかつりなへ紅れ
四三はしひとなりちやうたいは

仰經をあ(アンヂ)重せられたるゆゑ
ゆゑ面し
行音(キヤウヤウ) 抹音(ミツヤウ)なとともちく配(ハイ)
面とも法の誦れ附るを生の
例也
物あはれ 女二宮あれて
のかれとゆゑ也
門荘(シヤウ)とあはり 女二宮れは
面しと仏まゆゑ
ゆゑ行ひぬ 世のあらまく
ゆまなとゆゑ

こもれ面し
蓮葉をあはりうてると千
二疎れまるくとハ別まゆゑ
ゆうそめなる 見君れ前也
面たてなくもちとれ方
君りんや 源氏のまゝ正
まゝ行面ハ其まゝ
しとも
七僧はうかく 誦師(ヤウシ) 誦師(ドクシ)
咒(シユウ)厳(ゴン) 二礼(ライハイ) 唄散(サンケ)を営(タウツ)
語ら七僧也